

# 高知市内保育所・幼稚園における 麻しんについての意識調査

古味操 杉本雪乃 長谷川陽一  
星野悠介 細山直人 宮内玄德 安井理

## はじめに

2007年に首都圏を中心とした大学における麻しんの流行<sup>1)</sup>が新聞の1面を賑わせたのをはじめ、日本の少年野球チームが米国で開催された国際大会で麻しんの感染源になるなど<sup>2)</sup>、日本における麻しん対策の遅れが国内外で問題視されている。麻しんの治療法は対症療法のみであり、またSSPE(亜急性硬化性全脳炎)などの合併症や死亡例もあるため、わが国における早急な麻しん対策が望まれている。

麻しんの最も効果的な対策は予防接種であり、発症を防ぐことが可能である。そこでワクチンの効果をより高めるため、わが国では2006年より小学校入学前の幼児に対して第二期接種が追加された。しかしながら、高知県の第二期接種率は81.0%(47都道府県中45位)と低く、なかでも高知市は78.0%と高知県の中でも特に低い<sup>3)</sup>。

その一方で、第二期予防接種率向上に向けた取り組みに成功した自治体の例も報告されている。成功事例で多く実施されていたのが、「保育所・幼稚園(以下;保育施設)を通じた、接種対象児の母親に対する接種勧奨」であったが、高知市ではそのような対策は実施されていなかった。

そこで本研究では、高知市内保育施設においてアンケート調査を行い、麻しん対策の実態を明らかにすると共に、今後の接種率向上に向けた対策を考察することを社会医学演習全体の最終目標とした。

## 対象と方法

平成20年12月4日より12月17日まで、高知市内幼稚園(23施設)および保育所(86施設)に対して、麻しんについてのアンケート調査を実施した。

各施設責任者にアンケートを郵送し、アンケートへの協力を書面で依頼した。アンケートの依頼状には、1)本調査への協力は各施設の自由意志で行なわれること、2)本調査への回答を研究目的以外に利用されることのないこと、3)回答内容は解析時に匿名化されることを明記した。

## 結果と考察

回答は109施設中77施設(70.6%)から得た。項目は、目的別に以下の3つに分類した。

1. 感染症全般への対策の実態
2. 麻しん及びMRワクチン接種についての認識
3. 自治体からの第二期MRワクチン接種の接種勧奨依頼に対する、高知市内の保育施設における理解とその実現性

## まとめ

今回の実習では、保育所・幼稚園へアンケート調査を行なうと共に、高知市と高知県の接種事業担当者にインタビュー調査を行い、また 95%の接種率を達成した自治体の取り組みについても分析を行なった。それらを通して、接種事業には多くの機関が関わり、決して高知市の一存では実施できないことが分かった。しかし、市が事業の主導的立場にあり、接種率向上の責任を負うことに変わりはないであろう。アンケート調査の結果からは、保育所・幼稚園の麻しんおよび第二期 MR ワクチン接種に対する認識は十分とは言えないものの、多くの施設が接種事業には協力的であり、チラシ配布依頼などが接種率向上に向けて実現可能な対策であることが示唆された。

この結果を踏まえ、保育所・幼稚園に対しチラシ配布や接種勧奨の依頼などの積極的展開を提言として終わりにしたい。

最後に、本実習を遂行するにあたりインタビューにご協力いただいた、高知市保健所健康づくり課、高知県健康福祉部健康づくり課、ならびにアンケートにご協力いただいた高知市内の幼稚園、保育園の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。